

初期臨床研修医を迎えて ～教えることは学ぶこと～

理事長 貞方 洋子

この年報の原稿依頼を受けたちょうどその頃、私は今年、2年間の初期臨床研修を終えて南風病院を去っていく研修医3人の送別会に参加していました。参加者は研修医の他は院長はじめ研修担当医の先生方、看護師、協力型臨床研修病院や関係する診療所の先生方などです。会は終始、和やかな雰囲気でした。そこで、今年の年報では、「初期臨床研修医を迎えて」、というテーマで、特に人に焦点をあてて南風病院の今を伝える挨拶文とさせていただきました。

南風病院は平成18年4月から基幹型臨床研修病院として、初期臨床研修医を受け入れ、指導にあたっています。精神科や産婦人科、小児科など、選択必修科目で南風病院に無い診療科に関しては、協力型臨床研修病院や研修協力施設のお力をお借りして、臨床研修に取り組んでいます。今年で3回目の研修生を世に送り出すことができました。

研修を終えた3人の研修医からは、一様に「南風病院で研修を受けることができ良かった」「病院の皆さんからは本当に親身になってご指導いただきました」等々、感謝の言葉を頂戴しました。有難いことです。が、果たしてそうだったのか？南風病院は、医師としての礎を築く、大事な卒後研修の場所として本当にふさわしい環境だったのか？正直、喜びと共に、人を育成することの責任を強く感じました。むしろ、我々の方が若い研修医の漲る知識欲と貪欲な学ぶ姿勢から、新たなエネルギーを注入してもらった、そんな感謝の気持ちでいっぱいでした。

平成22年度は1年次あたりの研修医枠が7人に増員になります。2年生も加えると常時9人の研修医が南風病院で研修を受けていることになります。そのため、研修医顧問1人と研修担当医1人体制から研修担当医2人体制になります。また、必修科目の「地域医療」では、Dr.コトーでお馴染みの薩摩川内市下甕手打診療所が、研修協力施設に加わっていただいております。医師不足の折、離島医療の実際を学べる、貴重な体験につながると思います。

南風病院は、“がん”が主要取扱疾患の第1位です。そのため、がんの集学的チーム医療の推進に向けて、専門医や認定薬剤師・看護師の育成に努めています。今年は日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医、がん薬物療法認定薬剤師、がん化学療法認定看護師、緩和ケア認定看護師が夫々1名ずつ認定されました。その他、がん看護外来、皮膚・排泄ケア外来、糖尿病外来など、来年度からは各種看護専門外来もスタートします。

南風病院の理念は、“人にやさしく、あたたかく”です。今回、若い研修医の先生が加わったことによって、組織の中に「学びの連鎖」という、新しい風が吹いてきました。その風の勢いを、スタッフの知識と技術のさらなる向上に反映させ、より良い医療の提供に努めてまいります。どうか引き続きご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

Nanpouh Hospital